

令和3年度

看護学研究科（博士前期課程）

問題・出題の意図・解答のポイント

令和2年8月29日

高知県立大学大学院

小論文

問 既存の概念のみで看護現象を捉えることによる課題と、その課題に対する看護者としての方略について、あなたの考えを述べてください。

(100点)

<出題の意図>

既存の概念のみで看護現象を捉えることは、対象理解や看護実践に方向性をもたらす一方、独自性を阻む。この設問により、既存の概念のみで看護現象を捉えることに関する専門的知識、看護実践に対する洞察力、論理性と抽象的思考力をみる。

<解答のポイント>

既存の概念のみで看護現象を捉えることによる課題（固定化した対象理解、ケアの画一化など）と、その課題に対する看護者としての方略（批判的思考をもつこと、異なる意見を受容すること、内省し続けることなど）について、自分の考えを論理的に述べていること。

英 語 (CNS・研究コース)

I 次の英文を読み、下記の質問に日本語で答えてください。

出典：Jane Westergaard: An Introduction to Helping Skills, p.59, Sage Publications, 2017 より抜粋

<出題の意図>

大学院博士前期課程において必要となる基礎的な英文読解力と、設問の内容を的確に把握し解答する力をみる。

問1 支援の文脈における質問について、筆者はどのように述べていますか、要約してください。

(50点)

<解答のポイント>

以下の内容を含んでいること。

- ・閉じた質問、複数の質問、誘導的な質問は避ける方がよい
- ・クライアントが状況や経験や感情や事実を明確にできるようにするためには、閉じた質問は役に立つが、使いすぎると尋問のようになることがある
- ・あれこれと尋ねることは、クライアントを混乱させ、最初か最後の質問にしか答えないかもしれない
- ・誘導的な質問は、支援者の判断を示すことになり、クライアントに反対や議論をさせないことになる
- ・深い思考と内省を可能にするには開いた質問と閉じた質問の両方が必要であるなど

問2 看護実践において、ケアの対象者を助けるような質問とはどのようなものだと考えますか、英文の内容も参考にして、あなたの意見を述べてください。

(50点)

<解答のポイント>

提示された英文をふまえ、自らの考えを述べていること。

英 語（実践リーダーコース）

I 次の英文を読み、下記の質問に日本語で答えてください。

出典：Rita H. Pickler: Editorial Advances and Challenges in Symptom Science, Nursing Research, 69(2), p.89, 2020 より抜粋

<出題の意図>

大学院博士前期課程において必要となる基礎的な英文読解力と、設問の内容を的確に把握し解答する力をみる。

問1 下線部を日本語に訳してください。

(20点)

<解答のポイント>

文章を正しく捉えて、日本語に訳していること。

問2 症状がもたらす、患者が体験している苦痛を軽減するために、看護ケアで配慮すべきことについて、あなたの考えを述べてください。

(30点)

<解答のポイント>

問いに対して、自らの考えを述べていること。

専門科目・がん看護学

問1 呼吸困難を呈している進行がん患者への看護援助について、以下の1)、2)に答え
てください。

(100点)

- 1) 進行がん患者の呼吸困難の出現に影響する要因について説明してください。
- 2) 1) であげた要因をふまえて、呼吸困難を呈している進行がん患者への看護援助について、根拠とともに述べてください。

<出題の意図>

呼吸困難を呈している進行がん患者を全人的に理解し、援助することは重要である。この設問により、進行がん患者の呼吸困難に関する専門的知識、苦痛緩和に関する看護実践能力、論理的思考力をみる。

<解答のポイント>

- 問1-1) 進行がん患者の呼吸困難の出現に影響する要因について、がん自体によるもの、治療に伴うもの、薬物によるもの、痛みによるもの、不安や抑うつ、などの視点から説明していること。
- 問1-2) 呼吸困難を呈している進行がん患者への看護援助として、1) でとりあげた要因をふまえて、全人的アセスメント、苦痛の緩和、日常生活への援助、心理的サポート、などを根拠とともに述べていること。

問2 遺伝性腫瘍の可能性のある患者を支える看護援助について、以下の1)、2)に
答えてください。

(100点)

- 1) 遺伝性腫瘍の可能性のある患者の心理社会的側面の特徴をとりあげて、説明してください。
- 2) 遺伝性腫瘍の可能性のある患者を支える看護援助において有用と考える概念を1つとりあげて、その概念を用いてどのような看護援助を行うかについて、具体的に述べてください。

<出題の意図>

遺伝性腫瘍の可能性のある患者の心理社会的な側面の特徴を理解し、援助することは重要である。この設問により、遺伝性腫瘍の可能性のある患者を支える看護援助についての専門的知識、分析力、看護実践能力、論理的思考力をみる。

<解答のポイント>

- 問2-1) 遺伝性腫瘍の可能性のある患者の心理社会的な側面の特徴（がん罹患前からがんに対する恐れや不安をもつ、血縁者への影響を危惧する、遺伝学的検査への迷いなど）について説明していること。
- 問2-2) 有用と考える概念（ケアリング、意思決定など）を1つとりあげて、その概念を用いて、遺伝性腫瘍の可能性のある患者を支える看護援助を具体的に述べていること。

専門科目・慢性看護学

問1 壮年期成人における生活習慣病の重症化予防支援について、以下の問いに答えてください。

(100点)

- 1) 生活習慣の形成に影響する要因をあげ、その形成過程について説明してください。
- 2) 上記1)をふまえて、壮年期成人が生活習慣病の重症化を予防するための支援について、その根拠とともに述べてください。

<出題の意図>

壮年期成人における生活習慣病の重症化予防支援は、慢性看護の重要な役割である。この設問により、壮年期成人における生活習慣病の重症化予防への支援に関する専門的知識、分析力、論理的思考力をみる。

<解答のポイント>

- 問1-1) 生活習慣の形成に影響する要因として生物学的遺伝、発達課題、物理的・身体的・言語的因子など、形成過程として条件づけ、繰り返しによる自動化など、について説明していること。
- 問1-2) 上記1)をふまえて、壮年期成人が生活習慣病の重症化を予防するための支援について、自分の考えを根拠とともに述べていること。

問2 次の事例を読んで、慢性疾患をもつ成人の治療選択の意思決定支援について、根拠とともに具体的に述べてください。

(100点)

Aさん(45歳、男性、独居、漁師)は、数年前に健康診断で高血圧と腎機能低下を指摘され、近医で内服処方されたが、自覚症状がないため治療中断していた。Aさんはその後も仕事を続けていたが、倦怠感、食欲不振、浮腫著明で就労が困難になり、再び近医を受診した。検査の結果、重度の腎機能低下により専門医へ紹介され、そこで慢性腎臓病ステージIVと診断された。専門医より腎代替療法の必要性が説明され、次回外来で腎代替療法の選択についての話し合いが予定された。Aさんへ腎代替療法の理解度を確認すると、「その治療はいつまでやればいいのか?」と答えた。

<出題の意図>

慢性疾患をもつ成人の治療選択の意思決定支援は慢性看護の重要な役割である。この設問を通して、治療選択の意思決定支援に関する専門的知識、看護実践能力、論理的思考力をみる。

<解答のポイント>

慢性疾患をもつ成人の治療選択の意思決定支援として、慢性腎臓病の自覚症状・徴候と仕事への影響を関連づけて病気理解を促す、生活・人生の価値観や希望を共有する、各治療法のメリットとデメリットについて情報提供するなど、根拠とともに具体的に述べていること。

専門科目・クリティカルケア看護学

問1 重症患者の睡眠障害の要因をあげ、とりあげた要因をふまえて睡眠障害を改善する看護援助について具体的に説明してください。

(100点)

<出題の意図>

睡眠障害を改善することは、重症患者の生活支援において重要な課題である。この設問により、重症患者の睡眠障害への看護援助に関する専門的知識、看護実践能力、論理的思考力をみる。

<解答のポイント>

重症患者の睡眠障害の要因として、環境要因、サーカディアンリズムの障害、不適切な鎮静剤の使用、疼痛などをあげ、とりあげた要因をふまえて睡眠障害を改善するための看護援助について具体的に説明していること。

問2 事例を読んで、以下の1)、2)に答えてください。

(100点)

Aさん(40歳、男性)は、交差点を横断中に乗用車に衝突され、救命救急センターに搬送された。呼びかけ、痛み刺激に開眼せず、四肢の筋緊張が亢進していた。両下肢は伸展し、両上肢は屈曲内転していた。呼吸数30回/分、脈拍60回/分、血圧142/80 mmHg、瞳孔は右4mm、左3mmで、対光反射は右がやや緩慢であった。右側頭部と右肩甲骨部の擦過傷以外に目立った外傷はなかった。

1) Aさんの状態をアセスメントしてください。

2) 1)をふまえて、Aさんへの看護援助について、具体的に述べてください。

<出題の意図>

頭部外傷による重篤な脳障害のある患者への看護援助は、クリティカルケア看護学において重要な課題である。この設問により、頭部外傷による脳障害のある患者への看護援助に関する専門的知識、分析力、看護実践能力、論理的思考力をみる。

<解答のポイント>

問2-1) Aさんのアセスメントとして、受傷機転から生命の危険を伴う外傷の可能性のあること、意識障害、異常肢位(除皮質硬直)も見られることから、重篤な脳の損傷がおこっている可能性などについて述べていること。

問2-2) 上記1)をふまえて、Aさんへの看護援助について、全身状態のモニタリング、生命維持、苦痛の緩和、二次的障害の予防など、具体的に述べていること。

専門科目・精神看護学

問1 次の事例を読み、退院に向かっているAさんへの看護援助を2つとりあげ、根拠とともに具体的に述べてください。

(100点)

会社員のAさん(40代、男性)は昇進を機に、早朝覚醒や頭痛、集中力の低下が現れ、早退したり仕事を休みがちになった。希死念慮を口にするようになり受診し、うつ病の診断で初めて精神科病棟に入院した。入院後2か月経ち精神状態は安定し、日中は作業療法に参加したり散歩したり、落ち着いて過ごしている。2週間後に退院し、自宅療養してから復職することを予定している。Aさんは「早く職場復帰したい気持ちと、働けるのか心配な気持ちがある」と話している。

<出題の意図>

退院に向かっているうつ病をもつ患者に対して、再発の可能性や患者の生活の状況をふまえて課題を検討し、看護援助を行うことが重要である。この設問を通して、うつ病をもつ患者の看護に関する専門的知識、分析力、看護実践能力、論理的思考力をみる。

<解答のポイント>

退院に向かっているうつ病をもつ患者への看護援助について、うつ病に関する疾患教育を行うこと、症状マネジメントを促すこと、段階的な職場復帰に向けて職場との調整を行うことなどから2つとりあげ、根拠とともに具体的に述べていること。

問2 親の病気や入院、精神疾患を理由に、親に代わり家事や家族の介護などを行う子ども(ヤングケアラー)について、以下の1)、2)に答えてください。

(100点)

- 1) 精神疾患をもつ親と暮らすヤングケアラーの体験について、1つの心理社会的概念を用いて、具体的に述べてください。
- 2) 1)をふまえて、精神疾患をもつ親と暮らすヤングケアラーに対する看護援助について、具体的に述べてください。

<出題の意図>

精神疾患をもつ親と暮らすヤングケアラーについて、教育の問題や友人関係、人格の形成などに影響が及ぼされること、支援の届きにくさがあることが問題となっている。

この設問を通して、ヤングケアラーの体験と看護援助に関する専門的知識、看護実践能力、論理的思考力をみる。

<解答のポイント>

問2-1) 精神疾患をもつ親と暮らすヤングケアラーの体験について、疎外感、社会的孤立、スティグマなどの概念を1つ用いて、具体的に述べていること。

問2-2) 1) をふまえて、社会とのつながりを形成する、精神疾患に対する教育を行う、地域での支援の仕組みづくりを行うなどの看護援助について、具体的に述べていること。

専門科目・在宅看護学

問1 中山間地域における在宅での看取りについて、以下の1)、2)に答えてください。
(100点)

- 1) 中山間地域における在宅での看取りに関する課題を現状とともに1つ述べてください。
- 2) 1)でとりあげた課題の解決に向けた訪問看護師としての取り組みを根拠とともに述べてください。

<出題の意図>

多死社会を迎えて、訪問看護師は住民が住み慣れた地域で最期まで望む生活を実現できるよう支援することが求められている。この設問から、中山間地域における在宅での看取りに関する専門的知識、分析力、看護実践能力、論理的思考力をみる。

<解答のポイント>

- 問1-1) 中山間地域における在宅での看取りの課題として、家族機能の低下、保健医療福祉資源の不足などについて現状とともに述べていること。
- 問1-2) 1)でとりあげた課題の解決に向けて、住民や療養者のセルフケア力を高めていくこと、住民や専門職とのネットワーク構築など、訪問看護師としての取り組みについて根拠とともに述べていること。

問2 次の事例を読んで、訪問看護師として必要な看護援助を2つとりあげ、アセスメントとともに具体的に述べてください。
(100点)

Aさん(58歳、女性)は夫(65歳)と娘(35歳、教員)の3人暮らしである。54歳の時に、右の手に力が入らなくなり、県内の大学病院神経内科で筋萎縮性側索硬化症(ALS)と診断され、特定疾患医療費助成制度、介護保険、身体障害認定の申請を行った。Aさんは病状の進行により56歳の時に胃瘻造設し、57歳の時に気管切開し侵襲的陽圧換気療法(TPPV)を導入したが、Aさんの希望で訪問看護等のサービスは導入せず、ベッド、車いすのレンタル、吸引器の給付や自宅改修を行った。その後、Aさんは、発熱による入退院を繰り返すようになり、担当保健師から在宅

医療や介護サービス等の利用を勧められ、訪問看護と訪問介護が開始されることとなった。現在、日常生活は全介助、吸引は閉鎖式吸引チューブを使用し、吸引回数も1～2時間に1回、37度台の微熱がみられる。コミュニケーションは口の開閉での読み取りのため、意思疎通に時間がかかる。夫は24時間の介護に疲れがあり、高血圧、糖尿病の悪化も指摘されている。娘は、中学校の教員で平日の仕事も多忙、土日も部活動の顧問をし、介護協力ができていないが呼吸器管理や吸引は可能である。

<出題の意図>

在宅で医療的管理が必要な療養者を支援することは訪問看護の重要な役割となっている。この設問では、人工呼吸療法や排痰法を必要とする在宅療養者と家族への看護援助に関する専門的知識、分析力、看護実践能力、論理的思考力をみる。

<解答のポイント>

必要な看護援助として、ALSや人工呼吸器に関連する呼吸器合併症や廃用症候群の予防と対処、人工呼吸器管理や吸引、胃瘻などの医療機器の管理や指導、家族の健康と介護負担への支援などから2つとりあげ、アセスメントとともに具体的に述べていること。

専門科目・老人看護学

問1 高齢者のフレイルについて以下の1)、2)に教えてください。

(100点)

- 1) フレイルにより高齢者が要介護状態におちいる可能性について、高齢者の特徴を2つあげ、根拠とともに説明してください。
- 2) 看護師は、入院した高齢者のフレイルの進行状況をどのように把握しますか。進行をアセスメントする視点を2つあげ、情報収集の方路について具体的に説明してください。

<出題の意図>

高齢者のフレイルは、健康寿命の延伸をはかるうえで重要な課題である。この設問により、高齢者のフレイルに関する看護の専門的知識、看護実践能力、論理的思考力をみる。

<解答のポイント>

問1-1) 高齢者の特徴として、筋力低下、社会的孤立、喪失体験などから2つあげ、フレイルにより要介護状態におちいる可能性について、根拠とともに説明していること。

問1-2) フレイルの進行をアセスメントする視点として、体重減少、主観的疲労感、歩行速度の低下などから2つあげ、情報収集の方路として、入院した患者の問診時には入院前半年から1年間の変化についても聞く、外出時の状況を聞く(頻度や歩行速度)、フレイルの特徴に絞った身体や動作の観察の視点をもつなどについて説明していること。

問2 COPDのため数年前から在宅酸素療法を行っていた84歳男性。数日前から体調を崩し、急性増悪との診断で入院加療となりました。医師からは「人工呼吸器を使うと早く楽になる」と説明され、入院に同行した家族は同意しました。しかし、本人は「人工呼吸器は使いたくない」「最近日本尊厳死協会のリビングウィルのカードを持つことにした」といって、呼吸器は装着せず治療することとなりました。看護師として、このケースに対する意思決定支援について課題を1つあげ、看護援助について根拠とともに説明してください。

(100点)

<出題の意図>

高齢者の意思決定支援については、十分な説明と同意、ACP など様々な観点から注目されている。この設問から、高齢患者の意思決定支援に関する専門的知識、分析力、看護実践能力、論理的思考力をみる。

<解答のポイント>

このケースに対する意思決定支援における課題として、本人の意思決定の過程が不明瞭なこと、家族の合意がどの程度得られているかなどについて1つとりあげ、それに対する看護援助について根拠とともに説明していること。

専門科目・看護管理学

問1 看護サービス管理のプロセスと看護過程の対象の違いを説明した上で、看護管理の最終的な目的を効果的に達成するための方略を述べてください。

(100点)

<出題の意図>

看護管理の実践において、最終的な目的を見失わず、そのプロセスを管理する視点は重要である。この設問により、看護サービス管理のプロセスに関する専門的知識、分析力、論理的思考力をみる。

<解答のポイント>

看護サービス管理のプロセスと看護過程の対象の違いとして、前者は看護サービスに関連するヒト・モノ・カネ・情報など幅広いが、後者は患者や家族という違いがあることなどを説明していること。最終的な目的を効果的に達成するための方略として、行動化、組織化、統制などについて述べていること。

問2 医療現場におけるリスクマネジメントについて、以下の1)、2)に答えてください。

(100点)

- 1) 看護職の労働安全衛生上のリスクについて具体的な例を1つあげ、そのリスクの現状を分析してください。
- 2) 1)であげたリスクを最小化していくための対策において、看護管理者に求められる役割機能について、あなたの考えを述べてください。

<出題の意図>

看護管理者には、労働環境への配慮の視点が重要である。この設問により、労働安全衛生に関する専門的知識、分析力、論理的思考力をみる。

<解答のポイント>

- 問2-1) 看護職の労働安全衛生上のリスクとして、針刺し等の職業感染、抗がん剤・放射線・有機溶剤等の暴露、患者・家族からの暴言や暴力などの具体的な例を一つあげ、リスクの現状を分析していること。
- 問2-2) リスクを最小化していくための対策において、看護師を含めた環境全体を視野に入れた評価をすること、評価のプロセスをマネジメントすること、当該リスクに関する職員教育を推進することなどの役割機能について、自らの考えを述べていること。

専門科目・災害・国際看護学

- 問1 災害対策を議論するときに、自治体の機能喪失による対応の遅れということが話題になります。看護の視点から、自治体の機能喪失による課題を2つあげ、その対策について述べてください。

(100点)

<出題の意図>

災害時における自治体の機能喪失の対策は、災害対応の重要な方略である。この設問を通して、自治体の機能喪失という問題に関する理解度、災害に関する専門的知識、分析力、論理的思考力をみる。

<解答のポイント>

自治体の機能喪失による課題として、関連機関との連携、避難所運営支援、受援などをあげ、その対策について、看護の視点から述べていること。

- 問2 Sustainable Development Goals(SDGs: 持続可能な開発目標)は、2015年9月の国連サミットで採択されたもので、国連加盟193か国が2016年から2030年の15年間で達成するために掲げた目標です。それら目標の一つに「3. すべての人に健康と福祉を(あらゆる年齢のすべての人の健康的な生活を確保し、福祉を推進する)」があります。状況を1つ設定して、看護の視点からこの目標を達成するために必要な方略について、具体的に述べてください。

(100点)

<出題の意図>

国際的な目標であるSDGsの達成に関し議論することは、災害・国際活動の視点から重要な課題である。この設問により、保健医療福祉における国際的な動向に関する専門的知識、分析力、看護実践能力、論理的思考力をみる。

<解答のポイント>

看護の視点から状況を1つ設定して、「3. すべての人に健康と福祉を(あらゆる年齢のすべての人の健康的な生活を確保し、福祉を推進する)」というSDGsの1つの目標を達成するために必要な方略について、具体的に述べていること。

専門科目・地域保健学

【問1は必答問題です。問2、問3は選択問題です。1つを選択して答えてください。】

問1 ヘルスリテラシーについて、以下の1)、2)に答えてください。

(120点)

- 1) ヘルスリテラシーについて説明し、地域保健もしくは学校保健におけるこの概念の重要性について述べてください。
- 2) 地域保健もしくは学校保健において、対象者のヘルスリテラシーを高める活動事例を1つとりあげて、具体的な支援について述べてください。

<出題の意図>

ヘルスリテラシーを高めることは、健康の保持・増進を図り、主体的な健康行動を行っていくうえで重要である。この設問により、ヘルスリテラシーに関する専門的知識、分析力、看護実践能力、論理的思考力をみる。

<解答のポイント>

- 問1-1) ヘルスリテラシーについて、歴史的変遷、定義、構成要素等の観点から説明していること。また、地域保健もしくは学校保健におけるこの概念の重要性について述べていること。
- 問1-2) 対象者のヘルスリテラシーを高める支援として、健康情報の獲得・活用に関する健康教育、健康行動を継続しやすい環境づくりなど活動事例を1つとりあげて、具体的に述べていること。

問2 地域におけるヘルスケアチームづくりにおいて重要な点について、あなたの活動分野を想定して、根拠とともに説明してください。

(80点)

<出題の意図>

地域におけるヘルスケアチームづくりは、保健活動の基本である。この設問により、ヘルスケアチームづくりに関する専門的知識、分析力、看護実践能力、論理的思考力をみる。

<解答のポイント>

地域におけるヘルスケアチームづくりにおいて重要な点として、地域の住民や様々な機関の合意を得て活動すること、医療サービスの面だけでなく福祉サービスも含めた総

合的なケアサービスとしての条件づくり、などについて、根拠とともに説明していること。

問3 慢性疾患をもつ思春期の子どもの復学支援において、養護教諭としてどのような支援を行っていくことが求められるか、2つとりあげて、根拠とともに述べてください。

(80点)

<出題の意図>

慢性疾患をもつ思春期の子どもの復学支援において、子どもの成長発達や病状に応じた支援を行っていくことが重要である。この設問により、慢性疾患をもつ思春期の子どもの復学支援に関する専門的知識、分析力、看護実践能力、論理的思考力をみる。

<解答のポイント>

復学前から学校内外の専門職者との合同カンファレンスをもち支援体制を構築する、学校生活における症状や体調管理への支援を行う、子どもの自尊心を高める、などから2つとりあげて、根拠とともに述べていること。